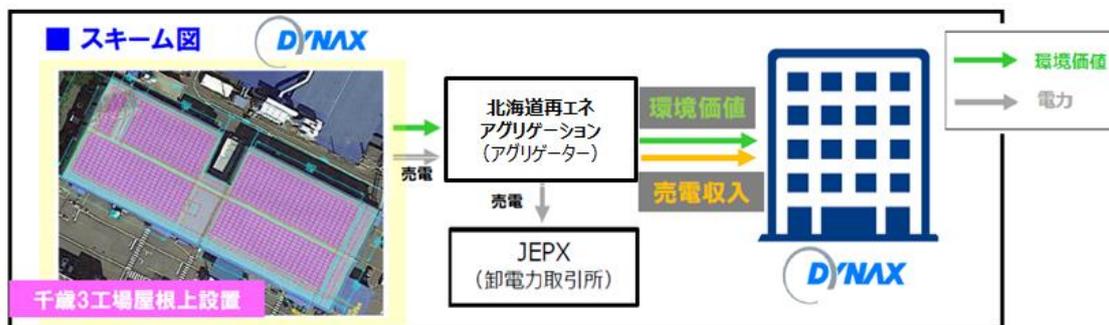


2026年3月3日

株式会社ダイナックス

ダイナックス、バーチャル PPA を活用した屋根上太陽光発電の運用開始

株式会社ダイナックス(以下「当社」)は、カーボンニュートラル実現に向けた取り組みの一環として、当社工場屋根上に太陽光発電設備を設置し、発電事業者および環境価値(※1)の需要家の双方を当社が担うバーチャル PPA(※2)方式での運用を開始しました。本設備は、経済産業省の FIP 制度(※3)に認定され、2026年3月より稼働しております。



バーチャル PPA スキームによる電力と環境価値の流れ

当社ではこれまで、太陽光発電設備の導入などを通じて再生可能エネルギーの利用比率向上に取り組んでまいりました。今回のバーチャル PPA スキーム導入により、「再エネを購入する段階」からさらに進み、自ら再エネを創出する“創エネ”を実現し、その環境価値を自社で活用するフェーズへ移行します。

本スキームでは、当社が FIP 制度の認定を受けた太陽光発電所から生じる電力を市場へ売電し、その売電収入を得る一方、当該電力が持つ環境価値は当社に 100% 帰属します。これは北海道再エネアグリゲーション株式会社と締結した「電力及び環境価値の取引契約」に基づく仕組みです。本取り組みにより、年間 155t-CO₂ の削減効果が見込まれ、当社全体の 0.4% (2019 年度比) に相当します。

※1 環境価値 再生可能エネルギーで発電された電力が持つ、CO₂を排出しない付加価値のこと。

※2 バーチャル PPA

再エネ電源で発電した電力から、その電力が持つ環境価値を切り離し、環境価値のみを売買する契約形態。需要家は電力会社の契約変更を伴わずに、再エネを使用した場合と同様の環境価値を取得できる。

※3 FIP 制度

「Feed-in Premium(フィードインプレミアム)」制度の略称で、再エネ導入を促進するための仕組み。発電事業者は一定のプレミアムを受け取りつつ、市場価格に連動した売電が行われる。

当社は、2050年までにカーボンニュートラルを達成することを目標に掲げており、今後も再生可能エネルギーの導入をはじめ、環境に配慮した製品群の拡充、生産体制の双方からカーボンニュートラルに挑戦し、SDGsの理念に基づく「未来の社会づくり」に貢献してまいります。

【取組みの概要】

発電所名	千歳3工場屋根上太陽光発電所
所在地	北海道千歳市上長都 1053 番地 1
発電事業者	株式会社ダイナックス
需要家	株式会社ダイナックス
アグリゲーター	北海道再エネアグリゲーション株式会社
PV モジュール枚数	917 枚
発電規模	380.5kWdc/333.3kWac
想定年間発電量	約 40 万 kWh
想定年間 CO2 削減量	155t-CO ₂
運転開始	2026 年 3 月



千歳3工場屋根上太陽光発電設備外観

【株式会社ダイナックス】

名称	株式会社ダイナックス https://www.dynax-j.com/
所在地	北海道千歳市上長都 1053 番地 1
代表者	代表取締役社長 小川 真
事業内容	乗用車・商用車並びに産業用・建設機械用・船舶用の湿式摩擦材、プレート等、摩擦機能部品の製造販売

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社ダイナックス カーボンニュートラル推進部 舟根

TEL : 070-1400-4503 E-mail : funane-t@mail.dxj.co.jp